第４次鈴鹿市地域福祉活動計画
評価推進委員会

（令和３年度分）

社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会

目次

１．評価推進委員会について　・・・　P1

第４次地域福祉活動計画　評価推進委員会設置規程　・・・　P3

２．令和２年度分　評価結果について　・・・　P4

３．評価シート

○基本目標１　地域ごとの福祉課題に対する取り組みの支援　・・・　P5
計画１－１　地域計画における福祉に関する取り組みの推進

○基本目標２　福祉啓発事業の推進　・・・　P7
計画２－１　認知症の理解を深める
計画２－２　ふくしの学びの場をつくる
計画２－３　かりんちゃん運営委員会の開催

○基本目標３　災害時における支援体制の強化　・・・　P10
計画３－１　災害ボランティアセンターと地域との連携
計画３－２　災害ボランティアコーディネーターの養成

○基本目標４　地域の困りごとへのアプローチとその対応　・・・　P12
計画４－１　コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の設置
計画４－２　気軽に相談できる総合相談窓口の開設

○基本目標５　多様なニーズのための支援体制づくり　・・・　P14
計画５－１　多文化共生を目指す地域活動の支援
計画５－２　多職種連携による権利擁護ネットワークの推進

1. 評価推進委員会について

① 活動計画期間

令和2年4月1日 ～ 令和6年3月31日

② 開催回数

年１回の開催を予定

③ 審議内容

活動計画の推進、点検、評価（PDCA サイクルに基づく)について審議

④ 委員名簿（任期 ： 令和6年9月30日まで）

氏名	選出区分	所属団体
◎菅原 秀次	学識経験者	鈴鹿医療科学大学
○水野 克則	自治会	鈴鹿市自治会連合会
岸 俊子	民生委員	鈴鹿市民生委員児童委員協議会連合会
森口 義文	地域福祉関係者	庄野まちづくり協議会(福祉部会)
飯野 光治	地域福祉関係者	夢ある稲生まちづくり協議会
里見 力	地域福祉関係者	井田川地区社会福祉協議会
宮﨑 悦子	地域福祉関係者	天名地区社会福祉協議会
三宅 真奈美	地域福祉関係者	地域包括支援センター
小川 竜司	地域福祉関係者	鈴鹿市福祉施設連絡協議会
森 典子	地域福祉関係者	三重県介護支援専門員協会鈴亀支部
岡野 美也子	ボランティア	鈴鹿市ボランティア連絡協議会
加藤 晋	商工関係団体	鈴鹿法人会 青年部
長尾 浩幸	行政	鈴鹿市健康福祉部(福祉事務所)
竹下 直哉	行政	鈴鹿市地域振興部

＊◎委員長 ○副委員長

⑥ 評価について

評価については、0から5までの6段階とし、年度ごとに行う。評価については、予め決められた単年度目標の達成度を事務局会議で協議し、出された事務局評価や事業報告をもとに、各委員より評価をしていただく。なお、合わせて実施結果等に対する意見をいただき次年度目標に反映する。

5 計画どおり進んでいる
4 おおむね計画どおり進んでいる
3 少し遅れているが進んでいる
2 遅れている
1 ほとんど進んでいない
0 全く進んでいない

⑦ 評価結果について

評価推進委員会での意見を踏まえ計画の見直しや課題を整理する。また、それらの意見を踏まえ次年度の単年度目標を再設定する。なお、結果については、ホームページに掲載する。

社会福祉法人 鈴鹿市社会福祉協議会

第４次地域福祉活動計画 評価推進委員会設置規程

（設　置）

第１条　鈴鹿市地域福祉活動計画の事務事業を評価し、もって地域福祉の推進を図るために、社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会（以下「本会」という）に地域福祉活動計画評価推進委員会（以下「委員会」という）を設置する。

（所掌事項）

第２条　委員会は、第４次地域福祉活動計画の推進及び点検や評価などに関することを審議する。

２　地域協議会に関すること。

（構　成）

第３条　委員会の委員は、本会理事、学識経験者、地域づくり協議会、当事者団体、民間法人、行政等から会長が委嘱する者で、１４名以内の委員をもって構成する。

（委員会）

第４条　委員会に委員長１名、副委員長１名を置く。

２　委員長は、委員の中から本会会長が指名する。

３　副委員長は、委員長が指名する。

４　委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。

５　副委員長は、委員長を補佐し委員長事故あるときは、その職務を代行する。

６　委員長は、委員会で評価した結果を本会会長に報告する。

（任　期）

第５条　委員の任期は、令和３年６月１日から令和６年９月３０日までとする。

２　補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会　議）

第６条　委員会は、委員長が召集し議長となる。

２　委員長は、委員会が必要と認めた場合は、委員以外の者の出席を求め、意見及び説明を聞くことができる。

（事務局）

第７条　委員会の事務局は、鈴鹿市社会福祉協議会内に置く。

（その他）

第８条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営、その他必要な事項については委員長が委員会に諮って定める。

附則

この規程は、令和３年６月１日から施行する。

第３次地域福祉活動計画評価委員会設置規程（平成２９年４月１日施行）は、廃止する。

2．令和２年度分評価結果について

		評価	委員	事務局
基本目標1	1-1 地域計画における福祉に関する取り組みの推進	3	3	3
	① 福祉課題の内容に応じた講座・勉強会を開催する	3	3	3
	② 活動を進める上での課題や問題に対する相談等に対応する	3	3	3
	③ 住民参加型福祉サービス（生活支援）の取り組みを進める	3	3	3
	④ 地域で実施される会議や定例会、サロン、イベント等へ参加し、地域課題やニーズの把握を行う	3	3	3
基本目標2	2-1 認知症の理解を深める	3	3	3
	① キッズサポーター養成講座の開催	3	3	3
	② 認知症カフェの開催	3	3	3
	③ 認知症等の行方不明者の捜索訓練	3	3	3
	2-2 ふくしの学びの場をつくる	4	4	4
	① ふくし講演会や出前講座の開催	4	4	4
	2-3 かりんちゃん運営委員会の開催	3	3	3
	① かりんちゃん運営委員会（年３回）を開催	2	2	2
	② 地域のふくしイベント等に参加	2	2	1
	③ 広報活動の見直し（SNS の活用）	4	4	4
基本目標3	3-1 災害ボランティアセンターと地域との連携	5	5	5
	① 災害ボランティアセンター拠点の確保	5	5	5
	② 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施	5	5	5
	3-2 災害ボランティアコーディネーターの養成	4	4	4
	① 災害ボランティアコーディネーターの養成	3	3	3
	② 災害ボランティアコーディネーターズの活動の充実	5	4	5
基本目標4	4-1 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の設置	4	4	4
	① コミュニティソーシャルワーカーを配置に向けた協議をする	5	5	5
	② コミュニティソーシャルワーカーと行政や専門機関が協力して、困りごとの解決に取り組みます。	3	3	3
	4-2 気軽に相談できる総合相談窓口の開設	3	3	3
	① ふくしに関する相談に総合的に対応するため窓口の在り方を協議する	3	3	3
基本目標5	5-1 多文化共生を目指す地域活動の支援	5	5	5
	① 外国籍の方のくらしの悩みや課題を話し合う場をつくる。	5	5	5
	② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。	5	5	5
	5-2 多職種連携による権利擁護ネットワークの推進	5	5	5
	① 権利擁護ネットワークに関する会議を開催（年３回）する	5	5	5
	② 専門職向けの研修・事例検討会を開催する	5	5	5

3. 評価シート

基本目標 1

地域ごとの福祉課題に対する取り組みの支援

計画 1-1　地域計画における福祉に関する取り組みの推進

令和 3 年度　評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	地域づくり協議会が策定を行う地域計画に掲げられている、住民同士の支え合い活動の実現や、高齢者等の行方不明者を捜索する体制の整備、高齢者や子育て中の親子の居場所づくり、地域の困りごとの解決や支え合い活動の担い手となる福祉委員の創設など、福祉に関する新たな取組を、地域のみなさんと一緒に進めます。			
単年度目標（ポイント）	内　容	対応数	事務局評価	委員会評価
	① 福祉課題の内容に応じた講座・勉強会を開催する。	18 回	4	4
	② 活動を進める上での課題や問題に対する相談等に対応する。	114 件	4	4
	③ 地域で実施される会議や定例会、サロン、イベント等へ参加し、地域課題やニーズの把握を行う。	248 件	4	4
	④ 地域包括支援センター（基幹型含む）、認知症地域支援推進員等との連携を進める。	19 件	4	4

実施結果

① 福祉課題の内容に応じた講座・勉強会を開催する。（令和 2 年度：10 回）

行方不明高齢者対策や福祉委員制度、地域の支え合い活動等について、令和2年度に引き続き勉強会を開催した。成年後見制度や傾聴などに関する研修会の希望もあり、幅広いテーマに対応ができるように、関係機関・団体とも連携を図っていく。

② 活動を進める上での課題や問題に対する相談等に対応する。（令和 2 年度：18 件）

※令和 2 年度目標の「住民参加型福祉サービス（生活支援）の取り組みを進める」の件数を集約しているため件数が大幅に増えた。

・住民参加型福祉サービス（生活支援）への取り組みを進める…99 回（令和 2 年度：88 回）

・その他…15 件（令和 2 年度：18 件）

住民参加型福祉サービスの取り組みが、様々な地域で関心が高まっており、勉強会や視察研修等の機会も増えている。取り組みが進む地域においては、地域の実情に応じた形態　（介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスB）への移行も検討されている。地域の課題に柔軟に対応できるように、生活支援コーディネーターを中心に働きかけを続けていく。

③ 地域で実施される会議や定例会、サロン、イベント等へ参加し、地域課題やニーズの把握を行う。（令和2年度：210 回）

・地域で実施される会議（地域づくり協議会　福祉部会、民児協定例会等）への参加…199 回

・ふれあいいきいきサロンへの訪問…34 回

・地域イベントへの参加…2 回

・地域から寄せられる相談に生活支援コーディネーターが聞き取り・対応…13 回

これらを通して、地域課題やニーズの把握をし、地域の実情に応じた支援や協力を行った。

共通する課題等については、協議体を通して情報共有を行った。

④ 地域包括支援センター（基幹型含む）、認知症地域支援推進員等との連携を進める。

令和３年４月より、市内包括支援センターが４包括から８包括に再編成されたことを受け、これまで以上に密に連携を取る機会が増え、圏域の地域ケア会議や認知症連絡会等へも参画した。部署間ではあるが、基幹型包括とも定例で会議を行い、それぞれの情報共有を行った。

○ その他

・各包括圏域にて、地域課題等の共有・解決に向けて検討していく、第２層協議体の設置がされた。４包括においては、地域ケア圏域会議を第２層協議体と共同で開催した。

・コロナ禍の影響で、フレイル予防に関する取り組みも進められており、地域包括ケアシステム推進室と連携を図り、市内4つのふれあいいきいきサロンにおいて、「鈴鹿おどりで認知症予防」も実施された。

・子どもから高齢者まで参加できる世代間交流を目的とした「こども食堂」を、稲生地区まちづくり協議会が設立するにあたり、生活支援コーディネーターが支援を行った。

・地域の社会資源の把握・有効活用を目的に、パソコンやタブレット等を活用したシステムの導入を検討したが、予算や準備等の調整が難しく、次年度以降に持ち越しとなった。導入に向けて働きかけを続けていく。

【地域課題の解決に向けた主な取り組み進行状況】

内　　容	令和２年度	令和３年度
・地域の支え合いグループの立ち上げ	4	7（+3）
・身近な場所での居場所（サロン）づくり	107	123（+16）
・福祉委員の創設	3	3
・行方不明者捜索ネットワークの整備	1	2（+1）
・災害時助け合いマップの作成	1	2（+1）

評価と 今後の課題 （事務局）	令和３年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域活動や様々な取り組みが停滞気味であったが、徐々に再開の兆しがみられ、地域住民の関心の高まりも感じている。 包括支援センターが８包括に再編成されたことに伴い、さらに問い合わせや新たな課題等の対応が予測される。生活支援コーディネーターに限らず、事務局内でも連携・共有を図り、今後整備が進める予定の重層的支援体制づくりに向けて働きかけていきたい。
令和４年度 目標	① 福祉課題の内容に応じた講座・勉強会を開催する。 ② 活動を進める上での課題や問題に対する相談等に対応する。 ③ 地域で実施される会議や定例会、サロン、イベント等へ参加し、地域課題やニーズの把握を行う。 ④ 重層的支援体制の整備に向けて、関係機関・団体等のとの連携を進める。（新）

5 計画どおり進んでいる　4 おおむね計画どおり進んでいる　3 少し遅れているが進んでいる
2 遅れている　1 ほとんど進んでいない　0 全く進んでいない

基本目標 2

福祉啓発事業の推進

計画2-1　認知症の理解を深める

令和３年度　評価	
事務局	委員会
4	4

<table>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">認知症についての正しい理解を持ち、認知症の方やサポートする機会をつくり、地域全体で認知症の方を支えるやさしい地域づくりに取り組む。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">単年度目標
（ポイント）</td><td>内　容</td><td>事務局評価</td><td>委員会評価</td></tr>
<tr><td>① キッズサポーター養成講座の開催</td><td>3</td><td>3</td></tr>
<tr><td>② 認知症カフェ（おれんじルーム）の開催、認知症支援ボランティアの養成</td><td>5</td><td>4</td></tr>
<tr><td>③ 認知症等の行方不明者の捜索訓練</td><td>4</td><td>4</td></tr>
<tr><td>実施結果</td><td colspan="3">**① キッズサポーター養成講座の開催**
コロナ禍のため、予定していた養成講座が中止となることもあったが、感染予防対策を行った上で可能な限り開催をし、受講者数は令和２年度（キッズサポーター61 名、認知症サポーター1,065 名）を上回ることが出来た。今後もコロナ禍におけるオンラインの活用や感染予防対策を実施した上での開催を継続する。
<table><tr><td>令和３年度実績</td><td>実施回数（回）</td><td>受講者（名）</td></tr><tr><td>キッズサポーター養成講座</td><td>6</td><td>178</td></tr><tr><td>認知症サポーター養成講座</td><td>44</td><td>1,281</td></tr></table>
② 認知症カフェ（おれんじルーム）の開催、認知症支援ボランティア（チームオレンジ）の養成
・既存の認知症カフェに加えて、新しい取り組みとして認知症の方やその家族が集まり、お互いの気持ちを共有し交流できる場として「おれんじルーム」を開催（計３回）。
・認知症サポーター養成講座修了者向けのステップアップ講座を開催し、新たに「認知症支援支援ボランティア」を養成→認知症の人とその家族と、認知症支援ボランティアで構成されるグループ「チームオレンジ」を結成。（チームオレンジ登録者数 53 名※令和４年３月末時点）
③ 認知症等の行方不明者の捜索訓練
・天名地区にて新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ、行方不明者捜索模擬訓練を実施。国府地区及び一ノ宮地区では訓練の実施には至らなかったものの、それぞれマニュアルの作成、素案の作成を行った。</td></tr>
<tr><td>評価と
今後の課題
（事務局）</td><td colspan="3">コロナ禍が続く中、新たな取り組みとして、認知症カフェの開催や認知症支援ボランティアの養成・チームオレンジの結成を行った。今後は感染予防策を講じた上で、認知症についての理解を深める周知・啓発活動や、認知症等の行方不明者の捜索訓練、認知症サポーター養成講座修了者向けのステップアップ講座の開催等について推進を行う必要がある。</td></tr>
<tr><td>令和４年度
目標</td><td colspan="3">① 認知症サポーター養成講座修了者の活動の場等の支援体制の構築（新）
② 認知症カフェ（おれんじルーム）の開催、チームオレンジの取り組みの推進
③ 認知症等の行方不明者の捜索訓練の開催</td></tr>
</table>

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる

2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

計画2-3　かりんちゃん運営委員会の開催

令和３年度　評価	
事務局	委員会
3	3

<table>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">身近にあるふくしを地域のみなさんにわかりやすく伝えるために、イメージキャラクターを活用したふくし活動をみんなで考え、取り組む。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">単年度目標
（ポイント）</td><td>内　容</td><td>事務局評価</td><td>委員会評価</td></tr>
<tr><td>① かりんちゃん運営委員会の開催（オンライン開催）</td><td>3</td><td>3</td></tr>
<tr><td>② SNS を中心とした情報発信の活発化</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>実施結果</td><td colspan="3">① かりんちゃん運営委員会の開催（オンライン開催）
新型コロナウイルスの影響から、オンラインでの開催を検討したが、設備等の関係もあり、皆で一堂に集う会の開催はできなかった。しかし、市内企業が参画している寄付付き商品企画「おもいやりプロジェクト」を見直す機会とし参画企業と市内高等学校に声を掛け、個々に話を進めた。
また、一部では、おもいやりプロジェクトや鈴鹿市の課題について勉強する場を設けていただき、生徒と一緒に考える時間とした。
結果、複数の高等学校と協働し、おもいやりプロジェクトを進めることが出来た。

② SNS を中心とした情報発信の活発化
若い世代の福祉意識向上を目的にインスタグラムを中心に発信を行うこととし、本会内で担当課以外も含め話し合い広報委員会を作り検討した。
まずは広く関心を持ってもらうために、今まで行ってきた福祉活動のみを紹介する内容から変更し、一見福祉と関係ないようなことも含め鈴鹿市内の事柄を発信することとした。結果、フォロワーが大幅に増え、コメントもあった。その中で、福祉活動に参加したいと言う声や、上記のおもいやりプロジェクトの応援メッセージなどもいただけるようになった。
しかし、方向性が定まっておらず、今後の展開に課題が残った。</td></tr>
<tr><td>評価と
今後の課題
（事務局）</td><td colspan="3">大人数が集まるイベントは避け、できることを行うよう心掛けた。委員会については、今までも高校生と協議する場はあったものの、一方的な展開であった。そのため、今回のプロジェクトについては、生徒や参画企業と一緒に作り上げることも一つの目標とし行った結果、積極的な提案や参加につながった。SNS については、引き続き、福祉的な事柄だけでなく、幅広く興味を引くような内容をアップしていく。</td></tr>
<tr><td>令和４年度
目標</td><td colspan="3">① かりんちゃん運営委員会の開催（オンライン開催併用）
② SNS を中心とした情報発信の活発化</td></tr>
</table>

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる

2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

基本目標 2

福祉啓発事業の推進

計画2-1　認知症の理解を深める

令和３年度　評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	認知症についての正しい理解を持ち、認知症の方やサポートする機会をつくり、地域全体で認知症の方を支えるやさしい地域づくりに取り組む。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	① キッズサポーター養成講座の開催	3	3
	② 認知症カフェ（おれんじルーム）の開催、認知症支援ボランティアの養成	5	4
	③ 認知症等の行方不明者の捜索訓練	4	4

実施結果

① キッズサポーター養成講座の開催

コロナ禍のため、予定していた養成講座が中止となることもあったが、感染予防対策を行った上で可能な限り開催をし、受講者数は令和２年度（キッズサポーター61 名、認知症サポーター1,065 名）を上回ることが出来た。今後もコロナ禍におけるオンラインの活用や感染予防対策を実施した上での開催を継続する。

令和３年度実績	実施回数（回）	受講者（名）
キッズサポーター養成講座	6	178
認知症サポーター養成講座	44	1,281

② 認知症カフェ（おれんじルーム）の開催、認知症支援ボランティア（チームオレンジ）の養成

・既存の認知症カフェに加えて、新しい取り組みとして認知症の方やその家族が集まり、お互いの気持ちを共有し交流できる場として「おれんじルーム」を開催（計３回）。

・認知症サポーター養成講座修了者向けのステップアップ講座を開催し、新たに「認知症支援支援ボランティア」を養成→認知症の人とその家族と、認知症支援ボランティアで構成されるグループ「チームオレンジ」を結成。（チームオレンジ登録者数 53 名※令和４年３月末時点）

③ 認知症等の行方不明者の捜索訓練

・天名地区にて新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しつつ、行方不明者捜索模擬訓練を実施。国府地区及び一ノ宮地区では訓練の実施には至らなかったものの、マニュアル作成、素案作成を行った。

評価と今後の課題（事務局）

コロナ禍が続く中、新たな取り組みとして、認知症カフェの開催や認知症支援ボランティアの養成・チームオレンジの結成を行った。今後は感染予防策を講じた上で、認知症についての理解を深める周知・啓発活動や、認知症等の行方不明者の捜索訓練、認知症サポーター養成講座修了者向けのステップアップ講座の開催等について推進を行う必要がある。

令和４年度目標

① 認知症サポーター養成講座修了者の活動の場等の支援体制の構築（新）
② 認知症カフェ（おれんじルーム）の開催、チームオレンジの取り組みの推進
③ 認知症等の行方不明者の捜索訓練の開催

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる
2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

計画2-2　ふくしの学びの場をつくる

令和３年度　評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	地域のみなさんがふくしについて学び、考え、参加できるきっかけづくりのため、色々なテーマの講演会や地域での出前講座などを開催する。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	① オンライン等を活用した講演会や出前講座の開催	4	4
実施結果	**① ふくし講演会や出前講座の開催** コロナ禍のため、講演会や出前講座等が例年通りの開催が困難となり、代替策として、会場とオンラインの同時開催等を通じて、地域住民がふくしについて学び、考え、参加できるきっかけづくりを行った。 （令和３年度の主な取り組み） ○「鈴鹿市権利擁護講演会」 ※会場開催と後日動画配信（YouTube） ・テーマ：「笑って学ぼう！人生笑顔で！笑ンディングノート」 ・講師：生島清身氏（社会人落語家・行政書士） ・開催日：令和３年12月１日（水） ・参加者数：会場100名、動画視聴者180名 ○「市民向け成年後見講座」 ※会場とオンライン（ZOOM）での同時開催 ・テーマ：「ご存じですか？成年後見人の役割」 ・開催日時：令和４年２月５日（土） ・参加者数：会場17名、オンライン（ZOOM）16名 ○「鈴鹿ふくし大学」 ※会場とオンライン（ZOOM）の同時開催 ・テーマ：「今からはじめる終活講演会 ～今考えるべき入院や治療、介護、財産管理、相続などにまつわる５つのこと～」 ・講師：池原　充子氏（「終活サポート」専任講師） ・開催日：令和４年３月８日（火） ・参加者数：会場60名、オンライン（ZOOM）65名　※定員超過で参加出来なかった方120名		
評価と今後の課題（事務局）	コロナ禍のため、講演会・出前講座等、これまで通りの会場での開催が困難となり、オンラインを活用した開催・啓発を行ったが、オンラインでも会場と同程度の参加があり、オンライン参加に対するニーズが高いことがわかった。今後も感染の収束が不透明な状況のため、会場だけでの開催や啓発に捉われず、オンライン等を有効に活用し開催すると共に、地域のみなさんがコロナ禍でも参加しやすい方法を引き続き検討する必要がある。		
令和４年度目標	① オンライン（ZOOM・動画配信等）を活用したふくしの学びの場をつくる。		

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる
2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

計画2-3　かりんちゃん運営委員会の開催

令和３年度　評価	
事務局	委員会
3	3

事業内容	身近にあるふくしを地域のみなさんにわかりやすく伝えるために、イメージキャラクターを活用したふくし活動をみんなで考え、取り組む。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	① かりんちゃん運営委員会の開催（オンライン開催）	3	3
	② SNS を中心とした情報発信の活発化	2	3
実施結果	**① かりんちゃん運営委員会の開催（オンライン開催）** 新型コロナウイルスの影響から、オンラインでの開催を検討したが、設備等の関係もあり、皆で一堂に集う会の開催はできなかった。しかし、市内企業が参画している寄付付き商品企画「おもいやりプロジェクト」を見直す機会とし参画企業と市内高等学校に声を掛け、個々に話を進めた。 また、一部では、おもいやりプロジェクトや鈴鹿市の課題について勉強する場を設けていただき、生徒と一緒に考える時間とした。 結果、複数の高等学校と協働し、おもいやりプロジェクトを進めることが出来た。 **② SNS を中心とした情報発信の活発化** 若い世代の福祉意識向上を目的にインスタグラムを中心に発信を行うこととし、本会内で担当課以外も含め話し合い広報委員会を作り検討した。 まずは広く関心を持ってもらうために、今まで行ってきた福祉活動のみを紹介する内容から変更し、一見福祉と関係ないようなことも含め鈴鹿市内の事柄を発信することとした。結果、フォロワーが大幅に増え、コメントもあった。その中で、福祉活動に参加したいと言う声や、上記のおもいやりプロジェクトの応援メッセージなどもいただけるようになった。 しかし、方向性が定まっておらず、今後の展開に課題が残った。		
評価と今後の課題（事務局）	大人数が集まるイベントは避け、できることを行うよう心掛けた。委員会については、今までも高校生と協議する場はあったものの、一方的な展開であった。そのため、今回のプロジェクトについては、生徒や参画企業と一緒に作り上げることも一つの目標とし行った結果、積極的な提案や参加につながった。SNS については、引き続き、福祉的な事柄だけでなく、幅広く興味を引くような内容をアップしていく。		
令和４年度目標	① かりんちゃん運営委員会の開催（オンライン開催併用） ② SNS を中心とした情報発信の活発化		

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる
2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

基本目標 3

災害時における支援体制の強化

計画3-1　災害ボランティアセンターと地域との連携

令和３年度　評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	災害への備えとして、地域と連携した災害ボランティアセンター設置等運営訓練を行う。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	① 災害ボランティアセンター運営に係る「車輌」に関する協定締結	5	5
	② 災害ボランティアセンター運営に係る「資機材等」の提供に関する協定締結	5	5
	③ 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施	2	2
実施結果	**① 災害ボランティアセンター運営に係る「車輌」に関する協定締結** 鈴鹿市災害ボランティアセンターにおいてボランティア及び資機材の移送に関する車輌について課題があった。そこで令和3年度、市内で観光業を営む「神勢観光株式会社」と協定を締結し、大型バス及びマイクロバスの車両及び運行にかかる人材の提供をいただき災害時における災害ボランティアセンター運営に対し協力体制を構築した。 **② 災害ボランティアセンター運営に係る「資機材等」の提供に関する協定締結** 鈴鹿市災害ボランティアセンター運営に際し、ボランティアを受け入れる上での飲料及び食料等の確保が難しく、また資機材等も細やかに移送する車輌の確保も喫緊の課題であった。そこで令和3年度、「生活協同組合コープみえ」との協定締結により、災害ボランティアセンター運営に係る飲料及び食料等の提供、資機材等移送する車輌の提供の確保に至った。 また、鈴鹿青年会議所とは、平成 26 年に協定締結を行い、5 年ごとに更新する協定内容であったが、毎年、青年会議所内の委員が流動的に変わることと、協定内容をより実情に合ったものとするため、年度更新することとした。 **③ 災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施** 3月に訓練実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染者数の増加や、まん延防止等重点措置が発令されたため中止とした。なお、訓練内容については、感染症対策及び受援力向上に向けた ICT の活用を計画していた。引き続き、令和 4 度実施に向け取り組んでいきたい。		
評価と今後の課題（事務局）	①②の目標については、想定以上の達成に至ったが、「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」の開催が叶わなかった。令和4年度は、計画していた災害ボランティアセンター運営に係る ICT の活用（感染症対策も兼ねた）に向け取り組みたい。		
令和４年度目標	①ICT を活用した災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施（新規） ②受援力向上に向けた連携・協定締結の実施 ③感染症拡大時にも対応できる体制構築		

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる
2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

計画3-2　災害ボランティアコーディネーターの養成

令和３年度　評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	災害ボランティアセンターと地域をつなぐ、災害ボランティアコーディネーターを養成し、防災活動に取り組むと共に、すでに養成している方へのフォローアップ（継続研修会等の開催）も行います。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	①　災害ボランティアコーディネーターズのスキルアップ	3	3
	②　専門部会での広報、研修、地域連携によって、より充実した災害ボランティアセンターの運営に係る活動の充実を図る。	5	5
実施結果	**①　災害ボランティアコーディネーターズのスキルアップ** 研修部会にて救急救命法の研修を開催した。災害ボランティアセンター運営上、応急措置がとれるよう研修・交流部会 13 名が参加した。 **②　専門部会での広報、研修、地域連携によって、より充実した災害ボランティアセンターの運営に係る活動の充実を図る。** 鈴鹿市災害ボランティアコーディネーターズにて、これまでは役員が中心となり運営を担ってきたが、より幅広い活動及び担い手の育成を視野に入れ、3つの専門部会を設置した。 広報部会 災害ボランティアセンター並びに災害ボランティアコーディネーターのチラシを作成し、広報活動を推進した。 研修・交流部会 災害ボランティアセンター開設時に急病のため救急救命法を要する機会が発生することを踏まえ、令和 3 年 12 月 19 日（日）に研修会を実施した。 地域連携ネットワーク部会 生活支援コーディネーターと連携し、地域づくり協議会中心に勉強会・養成講座を周知し、今後、各地区と連携を深められるよう計画を策定した。		
評価と今後の課題（事務局）	①のスキルアップについて、研修・交流部会以外の専門部会を巻き込んで全体で取り組むことに至らなかった点が反省点である。 ②については具体的な計画を策定し、実施に至った部会もあるためコロナ禍においては想定以上の結果となった。 令和4年度は、計画の内容に沿って勉強会・養成講座等にて周知啓発、スキルアップ、連携強化を図っていきたい。		
令和４年度目標	①鈴鹿市災害ボランティアコーディネーターズ５期生養成講座の実施 ②専門部会による取り組みをサポート ③ボランティア団体としての自立に向けた取り組み（新）		

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる
2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

基本目標
4

地域の困りごとへのアプローチとその対応

計画4-1 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の設置

令和３年度 評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	地域の皆さんが抱えている生活での困りごとなど、制度では対応できない課題に対して専門の職員が地域のみなさんや関係機関と協力し解決を目指す		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	① コミュニティソーシャルワーカーを令和４年度に配置することを目標に協議を進める。	5	5
	② 高齢者、障がい者、子ども等と言った課題の縦割りをせず、世帯全体の支援が出来るように包括化推進会議を開催し関係機関が連携できる体制を整える。	4	4
実施結果	**① コミュニティソーシャルワーカーの配置に向けた協議をする。** 鈴鹿市における相談支援体制の整備のため、各相談支援機関が抱える困難事例について、ケース検討会議を重ね、制度の縦割りにより制度に繋がらない方や相談窓口にたどり着けない方が多くみえることを改めて実感し、窓口に来られない方も含め相談を受け止める専門職の必要性について協議をした。 令和 4 年度からは、各相談支援機関の調整役である包括化推進員との兼務にはなるが、合計4名の CSW が配置されることとなった。 **② 高齢者、障がい者、子ども等と言った課題の縦割りをせず、世帯全体の支援が出来るように包括化推進会議を開催し関係機関が連携できる体制を整える。** 分野ごとに複数の相談機関が介入していることも多く、知らないままバラバラに支援をしているケースや1つの機関で抱え込みすぎるケースも多いことから、制度の枠組みを超えた包括化推進会議を開催し、様々な機関から意見をいただくと共に情報共有の場としても活用した。また、福祉部局以外の課題も多く、子どもの居場所に関する相談も多いことから、鈴鹿市や子育て支援団体等と共に協議し、鈴鹿市における子ども食堂ネットワークの立ち上げを行った。引き続き包括化推進会議を開催し、連携しやすい体制を整えていく。		
評価と今後の課題（事務局）	行政との協議の結果、令和 4 年度より CSW の配置が決定した。また、子ども食堂のネットワーク化等、鈴鹿市における相談支援体制の強化に繋がった。令和 4 年度は、CSW に繋がるための仕組みや、まずは身近にある各支援機関が相談事を受け止めることが出来るよう連携を深めていきたい。		
令和４年度目標	① コミュニティソーシャルワーカーと各支援機関の連携強化 ② 相談に来られない方等へのアウトリーチの強化		

5 計画どおり進んでいる　4 おおむね計画どおり進んでいる　3 少し遅れているが進んでいる
2 遅れている　1 ほとんど進んでいない　0 全く進んでいない

計画4-2　気軽に相談できる総合相談窓口の開設

令和３年度　評価	
事務局	委員会
2	2

事業内容	「相談窓口がたくさんあって、どこに相談したら良いかわからない」という声に対して、ふくしについての相談の入り口となる総合相談窓口の開設に向けて、行政やその他の専門機関と協力し取り組む。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	①　自立支援機関を中心とした相談窓口の整理を行うため、庁内連携が出来る体制づくりのため、研修会を実施する。	2	2
実施結果	**①　自立支援機関を中心とした相談窓口の整理を行うため、庁内連携が出来る体制づくりのため、研修会を実施する。** 各窓口がバラバラに対応することで、相談者に負担をかけることになっている現状から、福祉部局だけでなく、他の部局についても連携できる方法を検討した。まずは、鈴鹿市に配置されている包括化推進員が庁内連携を目指し、必要な範囲の情報共有や課題解決に向けた協議を行いやすくするよう調整した。また、本会に配置されている包括化推進員については、民間を中心とした支援機関の調整を行い、相談者にとって安心できる体制づくりを心掛けた。 なお、そこで、断らない相談を事業の一つとして上げている、重層的支援体制整備事業について、鈴鹿市も移行を予定していることから、庁内及び支援機関向けの研修会の開催を提案。しかし、実現には至らなかったため、改めて、令和4年度以降の開催を目指す。 また、市と社協の連携の一つとして令和３年度より、本会職員２名を鈴鹿市本庁に駐在させることとした。それぞれ情報共有を含めたスムーズな対応へと繋がった反面、窓口対応を主とする窓口への配置だったことから、本会の良さでもある、迅速な対応が実施できなかった部分もあり、課題が残った。		
評価と今後の課題（事務局）	計画当初は総合相談窓口という話が出ていたが、重層的支援体制という新たな事業の推進が求められており、一つの窓口に集中させるのではなく、多機関が連携することで課題解決を目指す方向に変わってきている。そのため鈴鹿市としての考え方を明確にする必要があるため、令和4年度においては、市の担当課だけではなく、関連部署と共に協議を進めていく必要がある。		
令和４年度目標	①　重層的支援体制整備事業への移行に向けた、庁内及び支援機関検討会議の実施。 ②　相談支援体制整備に向けた研修会の実施		

５　計画どおり進んでいる　　４　おおむね計画どおり進んでいる　　３　少し遅れているが進んでいる
２　遅れている　　１　ほとんど進んでいない　　０　全く進んでいない

基本目標
5

多様なニーズのための支援体制づくり

計画5-1　多文化共生を目指す地域活動の支援

令和３年度　評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	鈴鹿市で生活している外国籍のみなさんを支援する団体や、多文化共生の地域活動をサポートする。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	① 外国籍の方がくらしの悩みや課題を話し合い交流できる場をつくる。	4	4
	② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。	4	4
実施結果	**① 外国籍の方がくらしの悩みや課題を話し合い交流できる場をつくる。** 鈴鹿国際交流協会と協力をして、コロナ禍のなかで引きこもりがちな子どもや、子育てに悩む保護者を対象としたカウンセリング会を企画・実施。参加された方から、引き続き開催の希望の声があったため、令和４年度以降も実施の方向で調整している。 **② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動に参加・協力する。** （facebook の開設） ・新型コロナウイルス感染症の影響で、対面でのイベントや講座の開催が難しい状況が続いていたため、普段から交流やつながりを持つ機会や場づくりができないか話し合った結果、鈴ともメンバーの協力により facebook の開設をすることができた。管理・運営もメンバーにお願いすることで、様々な国の料理や慣習・文化等の紹介を発信していきたい。 （災害発生時に備えた取り組み） ・多言語支援ボランティアの育成を目指して実施された研修会に参加し、有事の際の課題や情報の共有を行った。これまでの取り組みが評価され、鈴鹿市の防災計画に、新たに　外国籍の方々に対する支援・配慮に関する項目が追加された。		
評価と今後の課題（事務局）	コロナ禍で思うような活動ができないこともあったが、一方でその中でも何かできることを話し合った結果、facebook　の開設など新たな取り組みにつなげることができた。これをチャンスととらえ、今できることを話し合いながら進めていきたい。 今後は、さらに当事者の声や思いに寄り添えるように、感染症対策を取りながら、直接話し合いや講座等が開催できるように準備していきたい。		
令和４年度目標	① 外国籍の方がくらしの悩みや課題を話し合い交流できる場をつくる ② 地域で開催される多文化共生を目的とした地域活動の周知及び参加・協力		

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる
2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない

計画5-2　多職種連携による権利擁護ネットワークの推進

令和３年度　評価	
事務局	委員会
4	4

事業内容	高齢者や障がい者の権利擁護支援を目的として、法律・福祉・医療の専門職が顔の見える関係づくりを行い、ネットワークを活かした様々な活動を行う。		
単年度目標（ポイント）	内　容	事務局評価	委員会評価
	①　権利擁護ネットワークに関する会議を開催（年３回）する。	5	5
	②　専門職向けの研修（スキルアップ）・事例検討会（ネットワークづくり）を開催する。	4	4
実施結果	**①　権利擁護ネットワークに関する会議を開催（年３回）する。** 高齢者虐待や消費者被害、成年後見制度の利用等、権利擁護に関する生活課題を抱えた方への支援を行う機関（法律・福祉・医療・行政）が顔の見える関係づくりと鈴鹿市における権利擁護課題の解決に取り組むことを目的に、「鈴鹿市権利擁護ネットワーク会議」を３回開催した。エンディングノートの普及等について検討が進められた。 **②　専門職向けの研修・事例検討会を開催する。** 鈴鹿市権利擁護ネットワーク会議主催で、専門職向けの研修・事例検討会を開催し、権利擁護に関する専門職のスキルアップ、ネットワークづくりを行った。 （「福祉職務向け権利擁護入門講座」の開催） ・開催日：令和４年１月14日（金）、21日（金） ・参加者数：27名（対象：福祉職で新任の方、権利擁護について基礎から学びたい方） （「鈴鹿市法福官連携権利擁護研修会」の開催） ・開催日：令和４年２月22日（火） ・参加者数：25名（対象：法律・福祉専門職、行政職員）		
評価と今後の課題（事務局）	権利擁護の推進を目的とした機関として、令和4年度より鈴鹿市後見サポートセンターに、中核機関の機能・役割が加わることとなった。地域ケア推進会議等においても、広域の課題として身寄りのない方の身元保証等の問題も出ており、より一層の取り組みが期待されている。 中核機関となった、権利擁護ネットワークの充実をさらに図りながら、終活の支援などにも取り組んでいきたい。		
令和４年度目標	①　権利擁護ネットワーク会議の開催（年３回） ②　専門職向けの研修（スキルアップ）・事例検討会（ネットワークづくり）の開催 ③　権利擁護ネットワークの充実を図る（新）		

5　計画どおり進んでいる　　4　おおむね計画どおり進んでいる　　3　少し遅れているが進んでいる
2　遅れている　　1　ほとんど進んでいない　　0　全く進んでいない